

令和元年度第1回広島市環境審議会 議事要旨

1 日時

令和2年1月30日（木）午前10時～午前11時55分

2 場所

合人社ウエンディひと・まちプラザ北棟5階研修室C

3 出席委員

西嶋 渉（会長）、田中 貴宏（副会長）、大浜 裕香、狩野 美紀子、寒川 起佳、高橋 恒治、内藤 佳奈子、中西 伸介、中山 幸子、長谷川 弘、林 武広、原 公子、村田 和賀代、元木 禎宏、森川 宣彦、若松 伸司（以上16名）

4 次第

- (1) 開会
- (2) 副市長挨拶
- (3) 委員の紹介
- (4) 会長・副会長の選任
- (5) 諮問
- (6) 議事

議題 「広島市環境基本計画」の次期改定について

報告1 第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標等に係る達成状況等（平成30年度）について

報告2 広島市地球温暖化対策実行計画に掲げる施策の実施状況等（平成30年度）について

- (7) 閉会

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

0名

7 会議資料

- 令和元年度第1回広島市環境審議会 配席表
- 広島市環境審議会委員名簿
- （議題）「広島市環境基本計画」の次期改定について
- （報告1）第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標等に係る達成状況等（平成30年度）について
- （報告2）広島市地球温暖化対策実行計画に掲げる施策の実施状況等（平成30年度）について
- （参考資料1）環境基本計画における環境分野の個別計画との関連性
- （参考資料2）広島市環境審議会の今後のスケジュールについて

8 議事要旨

発言者	発言要旨
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 今回は、議題が1件、報告が2件である。まず、議題の「広島市環境基本計画の次期改定について」、事務局の方から説明をお願いします。
環境政策課長	<p>【議題 「広島市環境基本計画」の次期改定について説明】</p>
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 皆様の御意見を伺う前に確認だが、次期計画の期間は、2021年度から5年間ということでしょうか。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> そうである。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 承知した。現計画の期間が5年であるため、次期も5年の計画で作っていくということである。 次期改定について、この方針で計画を作っていくということでしょうかということだが、いかがか。
元木委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料の最後の6番目だが、タイトルは市民・事業者・行政による協働体制の構築となっているが、説明文では市民と事業者が協力して取り組み、行政は別に責任をもって取り組むとなっている。 今我々が行っている環境問題への取組は、市民と行政が一緒になり、行政に世話になりながら行っている。例えば、ごみゼロクリーンウォークも、行政に中心となって行ってもらっている。我々はボランティアであるため、行政がもう少し協力体制を構築するような姿勢を持っていただければと思う。それらを踏まえて6番の説明文も考えてもらえればと思う。 また、「市民1人1人」と書いているが、市民も高齢化している。世帯においても、1人、あるいは2人世帯が多く、昔のように、1世帯に5人も6人もいて、その中から協力して家の前の清掃をしようという時代ではない。そのあたりも踏まえて、今から先、どのような人的構成になっているか、どのような変化があるかを考えることが必要だと思う。 それから、山口県も含めた近隣市町との広島広域都市圏構想があると思うが、例えば、太田川にしても、水質の管理をする場合は太田川の源流の地域も影響してくる。 また、我々は8月の平和記念式典の前に平和記念公園の清掃に行くが、枯れ葉がたくさん落ちている。これからオリンピックもあるので、平和記念公園にも枯れ葉が落ちていないくらい、平素から清掃を行って、これが広島の特徴であるというような形にしなければならないが、清掃が行事化してしまっている。我々が実際取り組むに当たって、これでは情けないと思っている。 ごみに関しても、例えば広島市はごみを無料で出せるので、三次の方からの通勤者が通勤中にごみを捨てていく。仕方がないので、市役所等ではごみ捨て場に鍵をかけている。 そのような実際の状況をいろいろな人から聞いている我々が一番よく知っている。この6番にはそのような状況も含めた文章化を図っていただきたいと思う。

西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 6番の「市民・事業者・行政」というタイトルはいいが、本文中で少し連携についての記載が不足ではないかという話と、もう一つは広島市だけでできると、太田川の例のように、地域連携してできることがあるため、2番の広域的な連携についてももう少しよく考えていただきたいという御意見だったと思う。
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> このような類いの計画書を、いかに市民の皆様に親しみのあるような形にしていくかということは考えていると思うが、元木委員のほうからもあったように、市民が環境との関わりの中でどんなトピックスに関心があるのかというところを大切にしないといけないと思う。 環境の分野は広いので、このような資料になっても仕方がないと思うが、今言ったようなメリハリを市民に見せるときに、一番後々まで効いてくる切り口が並んでいるのは、最後の「主なポイント」というところだと思う。 元木委員の話も踏まえながら話すと、例えば高齢化社会と環境では、ごみに関する施策を行う場合、高齢者にどういう問題が発生しているのかというところは一つ大きな切り口になってくる。 それから、SDGsという言葉が載っており、ここはいいと思うが、自然災害という言葉が大番号3の四角の中に出てくる。これをもう少し大きく取り上げてポイントの一つにするなどしてはどうか。市民がどのようなキーワードを一番関心を持って読むのかという視点からのポイントの検討というのが今一つなされてないのではないかと思う。教科書的にはこの資料のような並べ方になると思うが、市民に見てもらうときには違う言葉、図解、並べ方にした方がよいと思う。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害は最近確かに多く、資料では地球温暖化の項目の中で一つにくくられているが、大きな気候変動の影響は、市民の関心も高いという御指摘であった。資料に書いてあることは間違っていないと思うが、書き方、見せ方の問題だと思う。
若松委員	<ul style="list-style-type: none"> 第2次広島市環境基本計画の作成に関わった者として、当時の状況と現在でどのような違いがあるかをお話ししたいと思う。 第2次広島市環境基本計画の策定については、四つの自然環境、都市環境、生活環境、それを囲むような地球環境という、この資料中の図を随分議論して作成した。5年間経って、基本的にはこの形は継続して次の計画に引き継がれていくべきだと思うが、5年前と大きく変わっていることとして、先ほど災害の話もあったが、地球環境問題の表れ方がかなり顕在化している。例えば、5年前には「低炭素」という言葉を使ったが、今は「脱炭素」という言葉になりつつある。そういった状況を今回の改定でどのように含めるかということや、災害に強い都市づくりと環境問題というのは密接に関係しているため、その辺りも大きな視点になる。 それから、先ほどの話にあったような、そこに住む人の高齢化の問題などもあるので、以前の第2次広島市環境基本計画は踏襲したほうがよいと思うが、この5年間で何が大きく変わっているのかということをも十分に精査して、それをでき

	<p>るだけ取り込んでいくことが必要だと思う。是非よろしくお願ひしたい。</p>
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の計画策定からしばらく経っているため、当時言われていたこととウエイトが少し変わってきたということだと思う。現在、「低炭素」という非常に広く使われている言葉が、今はゼロにしないといけないという「脱炭素」に向かっている。気候変動で言えば、適応策というのをもう少し真面目に考えなければならないのではないか、5年間の時代の変化を踏まえて、改定をしていくべきだという御意見だったと思う。 ・ 今回は全体のフレームワークの話であるため、御意見いただいた内容については、素案で反映していただくということによろしいか。
元木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策については、広島市独自でできるものと、県や国、あるいは他県との幅広い関わりの中で効果的にできるものがあるのではないかとと思う。 ・ 広島市環境基本計画も、全国一律の内容ではなく、広島市ではこういう問題が特にピックアップされている、というような環境像がないといけない。例えば、計画中の「広島市」を「岡山市」にしても内容が同じになるというのでは特色が出ない。広島市の目標はこれだというものがないといけない。 ・ 結局は市民が読まない計画を達成できないので、計画の中にそういったスローガンを入れられないといけないのではないかとと思う。当たり前のスローガンではなく、広島らしさを持ったスローガンにできないかというのが私の考えである。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境というのは非常に広域的なものなので、市だけで施策を行うのは難しいというのはよくわかるし、他県や他市でも同じような意見が出る。 ・ ただし、市民に協力していただき、一緒に取り組むためには、市としての帰属意識がくすぐられるような何か欲しいというのは事実であるため、是非そういう地域の特性を生かした、広島市の市民が取り組みやすい計画で、広域的に連携ができる計画にしてほしいという御意見だったと思う。 ・ 基本的な方針としては御異議ないか。
各委員	<p>【異議なし】</p>
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回提示されたのは環境基本計画の次期改定の大きな方針であり、本日いろいろ貴重な御意見をいただいた内容を盛り込んでいただき、素案を作成するようお願いしたい。次回は骨子案である。 ・ 続いて、報告1、第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標等に係る達成状況等（平成30年度）について、事務局の方から説明をお願いします。
環境政策課長	<p>【報告1 第2次広島市環境基本計画に掲げる各施策の方針に関する主な指標等に係る達成状況等（平成30年度）について説明】</p>
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 御質問、御意見があればお願いします。
村田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業従事者に関するところで、資料のまとめの欄で新規就農者の育成で成果を上げているとあったが、新規就農者の平均年齢や、どの年齢層の方が増えているのかというのをお尋ねしたい。緑の保全の新規就農者のところとその次のページ

	<p>の農業従事者に関するところである。</p>
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> そのデータについては手元に持ち合わせていないため、次の時に情報提供させていただければと思う。
元木委員	<ul style="list-style-type: none"> 女性農業者については、60歳以上であるが私の近所の方がそういう勉強をしたいとのことで、JA等が実施している研修に行っている。 そのため、JA等と連携して、身近なところでそのような輪が広がればいいと思う。ただし、JAの協力は必要である。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 他にあればお願いします。
元木委員	<ul style="list-style-type: none"> イノシシやシカ等の被害額について、達成されたように書いてあるが、田舎に行くと害獣除けの柵や網、金網、トタン板がたくさん設置してある。これで達成したと言えるのか。一度安佐北区に来て見てもらえばよく分かる。いかにも達成したように高い数字が書いてあるが、未達成である。 それから、不法投棄について、市にも不法投棄監視員のパトロールで世話になっている。市が作った自動車の扉に付けるマグネットを自動車に貼り、不法投棄防止のパトロールをしている。マグネット貼らないと、警察からごみを捨てているのではないかと逆に言われる。今、安佐北区では40台ぐらいがパトロールをしている。 そのように行政と連携しながら、ごみの不法投棄対策をしているが、不法投棄はなかなかなくなる。なぜかという、通勤者が通勤途中に迂回して山道にごみを捨てたりしているからである。 そのため、不法投棄について達成したと書いてあるが、達成していない、イノシシ等の被害についても達成していない、という実情をお話しさせていただいた。現地の状況を見て、指標にしないといけない。 資料のグラフはいかにも数値が上がっているように書いてあるが、4、5人しか増えてないのに、倍くらい増えているように表に書いてあるので、そのあたりの表現も考えていただきたい。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 不法投棄等はゼロにはなかなかならないので、5年間でどの程度削減するのかを考えないといけない。実感としては無くなったとは言えないと思うが、いきなりゼロにはできないので、目標として5年間でどこまで削減していくかということだと思う。 今から御意見をいただく、今の第2次広島市環境基本計画の指標や実績について、次の改定の時に、新しい指標を入れるべきであれば新しい指標を入れ、必要がなければ除く、あるいは達成状況が悪ければ重点的に取り組むといった形で、次の計画に反映されていくことであるため、是非積極的に御意見いただきたいと思うが、いかがか。
内藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 評価なしの項目のところでは11番と12番について、他の項目は何年ごとに実施と書いてあり、評価なしとなっているので理解できるが、11番と12番に関しては調査未実施と書いてあり、これは今後調査を実施する予定があるのか、い

	つぐらいにするのかを教えていただければと思う。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> この11番、12番の項目について、法的に何年ごとに実施するといったものはないが、必要に応じて実施することになっている。 現在、必要性がどこまであるかというところでの実施の判断になるかと思うが、現時点で、計画として調査は予定していない。
内藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 必要があるため、計画に記載があると思うので、そういったところは次期の改定の際に明確に示した方がよいのではないかと思います。
村田委員	<ul style="list-style-type: none"> もう一度、緑の保全の項目で、森林面積が170ヘクタール弱減っており、住宅団地の開発等があったためと書いてあるのでどうしようもないところではあるが、取組として施業に対する助成を行うことなどが書いてある。実際のところ、伐採された後に、植林等をしていないのが実際多々みられるが、そういった状況は把握しているのか。再造林されているかどうかや、切ったまま放置しているところがどのくらいあるかといった数字があるかをお尋ねしたい。
環境政策課長	<ul style="list-style-type: none"> この森林関係については、他局が所管しているところであり、実際に伐採されたところが後にまた植林等がされているかなど、その後の状況については県が情報を把握しているが、今手元に情報がないので、調べて次回報告させていただきたいと思う。
村田委員	<ul style="list-style-type: none"> 森林面積について、地目は確かに森林になっているが、結局そこに何も生えていないということであれば、環境と森林という面ではどうかと思うので、実際にどうなっているかを把握した方がよいと思う。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> 貴重な御意見感謝する。回答できなかった項目は、次回報告させていただきたいと思う。 最後に、報告2、広島市地球温暖化対策実行計画に掲げる施策の実施状況等（平成30年度）について、事務局から御説明をお願いします。
温暖化対策課長	【報告2 広島市地球温暖化対策実行計画に掲げる施策の実施状況等（平成30年度）について説明】
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> ただいま御説明をいただいたが、皆様の方から御質問、御意見があればお願いします。
中西委員	<ul style="list-style-type: none"> 報告2の3ページの重要業績評価指標のところ、新築の戸建住宅と集合住宅の数値について、目標と非常に大きくかけ離れていると報告があったが、コストや販売価格の面で、不動産屋、デベロッパー、建設会社がなかなかできないところもあるとは思う。 だが、まず市が市民に啓発する事業を実施していると思うが、参考資料の1の2ページの中ほど、(2)の「革新的技術の大規模な導入の推進」の中で、アの「低炭素住宅の導入促進」、イに「省エネ機器等の導入」のところに、平成29年、30年の実績数があるが、これが果たして本当に効果的な周知活動や啓発活動ができていく数なのかというのが少し疑問である。 「住まいのアドバイザー」にしても、年間で8件というのはあまりにも少ない

	<p>のではないかと思います。例えば、住宅フェアに誰かを派遣すれば、相談がなくても派遣したとすることができてしまう。実際そのアドバイスを聞いて、建てたい、検討しているというところまでたどりつけているのかがわからない。</p> <ul style="list-style-type: none"> • それから、25番の「低炭素建築物新築等計画の認定制度」や、27番の「低炭素集合住宅建築補助」、30番の「集合住宅共用部のLED照明器具交換補助」などを見ると、平成29年より30年の方が実績が悪い。これは本当に周知活動が広がっているのか、とても疑問に思う数字である。 • また、補助制度についても本当に使いやすいものになっているのか、様々な条件の中で検討したが、諦めざるを得なかったなど、積極的に使っていただくためにどういった工夫がなされているのかが疑問である。 • 私の家も集合住宅であり、2年ほど前に大規模修繕があったが、その時に補助制度の活用を検討をしたが、なかなか使いづらいというのが実態だった。プチバブルやITバブルの頃にも集合住宅が広島県内や広島市内でも多く建っており、現在、大規模修繕の1回目、古い建物だと2回目に入ってきている。2回目になるとエレベーターとかの建築の設備や、揚水ポンプ、配管といった大きな修繕のタイミングでもあるため、補助を使いやすくすることで大規模に推進できないかと思う。そういった施策にしていっていただきたいが、これまでの取組みの効果、また、今後についてはどのようにお考えか。
<p>温暖化対策課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 使いやすい補助制度ということであるが、これは温暖化の関係に留まらず、おそらくどの行政分野の補助制度も同じことが言えるのではないかと思います。 • まず御指摘のあった、集合住宅のLEDの交換補助の件数が下がっていることについてはこちらでも認識しており、追加で広報を行った。制度を使っていたくのは、マンション管理組合の方々のため、マンション管理組合が集まる協議会の場に直接伺い、話をさせていただいたり、住宅の関係課がマンション組合に向けて通知を出すことがあるため、その中に案内を同封したりした。たまたま目に付いたらというような形ではなくて、できるだけ積極的に目につくような形で、30年度に取組を行ったが、それでも件数が21から12に減ってしまった。 • 我々もそれがなぜか考えたが、中西委員がおっしゃったように、建物の修繕のタイミングがあることや、管理組合の中の意思決定の状況というのが多分に影響すると思われる。また、補助制度をスタートしたときには相当数の需要が見込まれたが、新たな需要が見込まれるよりも、減っていく方が多いといったことが考えられるのではないかと考えている。 • また、補助制度の使いやすさについては常に考えていかなければならないことだと思う。ただ、公金を扱うので、いい加減な実績報告を出してもらってお金を出すことはできないため、ある程度そういったことを担保しながら、できるだけわかりやすい広報をし、できるだけ負担のないような制度にしていくことはしっかり考えていかないといけない。 • ちなみに、先ほど使い勝手の悪さというお話があったため、正確な状況をつ

	<p>いてお話を入れておくと、先ほどのK P Iの中のZ E Hの数字については、補助金の支出ベースである。国がZ E Hの補助制度を持っており、計画策定の時の数値目標の立て方も、全新築戸数に対する補助を交付した実績を分子として数字を出しているが、住宅メーカー等々に聞くと、補助を使わないケースもある。K P Iの数値は補助件数だけの数字になるため、実態としてはもっと多いというのが現状である。</p> <ul style="list-style-type: none"> • それもやはり補助の使い勝手というところにつながるが、報告数値の取り方も一つの課題であるということは認識している。
狩野委員	<ul style="list-style-type: none"> • 38番の環境マネジメントシステム導入への融資だが、お金と手間がとてもかかると聞いている。なぜ実績がゼロなのか。せっかく補助があるのにとと思うが。
温暖化対策課長	<ul style="list-style-type: none"> • これはあくまで融資制度であり、それぞれの事業者が、環境マネジメントシステムを導入するための資金融資という内容であるため、既にシステムを導入している会社は必要ない。事業者が今からシステムを導入していく中で、融資を受けたほうがキャッシュフローとしてよいのではないか、というようなときに出てくる制度である。我々も広く環境マネジメントシステムを導入してもらい、それぞれの事業者でP D C Aを回していただきたいということがあるため、環境保全資金融資の制度を設けている。 • なぜそれが導入されなかったのかという理由については、事業者がどう検討して、手を挙げなかったのかということになるが、個別の事情までは押さえていない。
西嶋会長	<ul style="list-style-type: none"> • エコアクションもなかなか拡大していないという現実がある。ここは補助の話なので少し違うが、ある時期導入が拡大しないということから、中小企業向けにエコアクションという制度が日本で作られたが、あまり広がっていないという話は聞いており、導入にハードルがあるとは思っている。 • 他にないようであれば、本日の会議を終了する。貴重な意見を頂き、感謝する。